

研究成果の紹介

カーネーション高温抑制摘心苗の9月定植による収穫期間の延長

兵庫県のカーネーション栽培は通常6～7月に苗を定植し、9月末～翌年5月末まで収穫するが、それ以降の時期は端境期となる。そこで、7月まで収穫期間を延長するため、夏季に日没後短時間冷房等、高温抑制下で育苗し9月に定植する作型を検討した結果、総収量が増加し、切り花の品質も向上した。

内容

カーネーション「エクセリア」を2017年6月20日に径7.5cmポットへ仮植し、底面給水装置上で7月11日に5節を残して摘心し、適宜ミスト散布を行い育苗した。試験区は底面給水のみを行った区（底面給水区）と、日没後短時間冷房（日没後4時間21℃設定）と日中に送風し気化冷却を行った区（高温抑制区）とし、9月1日に本圃に定植した。一方、慣行区は6月20日に本圃に定植し7月11日に摘心した（図1）。

その結果、摘心苗を9月定植した両区では、翌年の7月まで収穫が可能となり、高温抑制区は総収量が慣行区より2割程度増加した（図2）。また、この両区とも、秋に収穫される1番花の収穫開始日は遅れたものの、高温抑制区では慣行区より花

茎が硬くなり、年内の切り花品質が向上した（表）。さらに、この両区で収穫された2番花のうち、6～7月の切り花は大きく、花茎も硬く良質であった（表）。

以上より、高温抑制摘心苗の9月定植栽培は、総収量が増えるとともに、従来の6月定植では出荷できなかった翌年6、7月に良質な切り花が収穫可能となり、年間を通した有利販売につながる事が期待される。

今後の方針

定植時の作業性等について現地圃場への適応を検討する。

東浦 優（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

試験区	定植時期	育苗法	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
慣行	6月 (慣行)	—	○	×	—	—	—	—	—	—	—	—	▽	—	—	—
底面給水	9月 (摘心苗)	底面給水	◎	×	—	○	—	—	—	—	—	—	▽	—	—	—
高温抑制		底面給水十日没後短時間冷房等	◎	×	←	→	○	—	—	—	—	—	▽	—	—	—

○定植 ◎仮植 ×摘心 ←→冷房育苗 ▼加温開始 ▽加温終了 〇 収穫

図1 試験区の構成と収穫期間

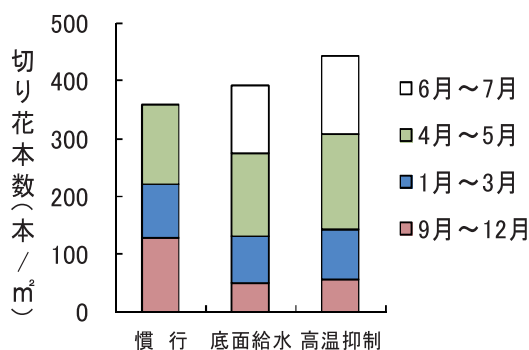


図2 高温抑制育苗が切り花総収量に及ぼす影響

表 高温抑制育苗が年内収穫の1番花および6～7月収穫の2番花の切り花品質に及ぼす影響

試験区	1番花(年内収穫分)			2番花(6～7月収穫分)	
	収穫開始 (月/日)	切り花重 (g/本)	茎下垂度 ²	切り花重 (g/本)	茎下垂度
慣行	9/23	16.8	20.7 a ³	—	—
底面給水	10/6	19.0	17.3 ab	25.1	5.3
高温抑制	10/8	18.7	13.0 b	22.3	7.2

²切り花先端から45cmの位置を支点に水平に保ち、支点と垂下した花先端を結ぶ直線が水平線と作る角度。値が小さいほど茎は硬い。

³アルファベットの異符号間は5%水準で有意差あり(Tukey法)